荒尾市立府本小学校　校長便り　№７９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年２月２７日(金)

【雑感】季節の移ろい

学校の敷地内を点検がてら歩いていますと、よく鳥の鳴き声が聞こえてきます。自然に囲まれた府本小学校ならではですね。２月も終わりに近づき、鶯（うぐいす）が盛んに鳴いています。いよいよ春だなと感じたひと時となっています。また、校舎と体育館の間には梅の木があるのですが、花が咲き誇っています。これから気温が上がってくると、桜の花も気になるところですね。更には、３月中旬以降は筍も気になるところです。昨年の４月は、私自身筍をそれこそ食べきれないほど頂きました。でもこの時期になると「まだ出てないかな？」と気になり、竹林をのぞき込んでしまいます。

学校では卒業式と入学式、それに伴う様々な行事の準備に余念がなく、子ども達も先生方も慌ただしく動いています。

確実に季節は移ろい、年度末が迫ってきました。年度の始めと終わりは、人や物の動きが活発になります。それに伴い、心が何かソワソワしてくる時期でもあります。こんな時期こそ一歩立ち止まり、落ち着いて行動すべきだと思います。私の経験則ですが、落ち着いて行動しないと思わぬ落とし穴にはまることがあるからです。新しい年度へ向けて、気持ちを引き締めて準備したいものです。

卒業式で教え子達にかけた言葉

卒業式の節目、教え子達との別ればほろ苦いものです。私は６年生を担任させて頂くことが多く、必ずやって来るその日に向けて、色々な言葉をかけてきました。元来、感動、涙うるうるってのが苦手で、できるだけカラッとした感じの式にしたく、更に照れ隠しもあってあまり気の利いた言葉をかけた記憶がありません。でその言葉を思い出してみました。

「卒業は節目だけど通過点でしかない。お前らとはいつも繋がっている。」

「１年間お前らを担任できて幸せだった。ほんとはこのままもっと一緒にいたいし、卒業なんてこなければよかったのになっていうのが本音だ。」

「もう学校くんなよ！　暇があったら勉強せ～！」

最後に、いつも「ありがとう」でした。私を教師にしてくれたのは、教え子達でした。教え子達と共に苦しみ、感動し、壁を乗り越えることで、私もこの世界で生きていけるのだなと。保護者の皆様も、我々教師の涙のツボを抑えてらっしゃるので、最後に子ども達全員から花を貰ったり、一言かけられたりするともうダメですね。黒板に向き直り、涙をこらえるばかり。やっぱり最後の一言は「ありがとう」しかでてきません。その、「ありがとう」には、色々な意味のありがとうを込めたつもりです。口にしたら涙が出そうですし、また、話し出したらきりがありません。私はラッキーなことに、これまでの教師生活では６年生担任が最も多く、卒業後の繋がりがあり、教え子達の節目節目で何らかの関わりを持たせて頂き、正に教師冥利に尽きます。大した教師ではない私に、これまで関わった子ども達、保護者の皆様が、今でも「先生」と声をかけてくださいます。有難いことです。

さて、６年生も府本小学校に登校できるのは、数えるほどしかありません。確実に卒業の日はやってきます。その日を充実した気分で迎えられるように活動してもらいたいものです。教室を覗くと心配ご無用のようで、卒業式の準備をしたり思い出話が聞こえたり、温かな雰囲気です。担任時代を思い出しながら、目を細めています。これからも教師でいられるように真摯に謙虚に感謝して頑張ります。

シリーズ「自分を語る」#７９

この女の子のお父さんがやってきました。当日は卒業証書を受け渡す練習でした。当然、全員の氏名点呼があり、大きな声で返事をして証書を受け取ります。彼女の番です。彼女は私の氏名点呼にも拘らず、無言で証書を受け取りました。卒業式の練習が終わり、この子のお父さんは娘の腕を取り、ステージ上に立たせました。

「○○！　お父さんが名前は呼ぶけん、大きな声で返事ばせえよ。○○！」

「・・・」（無言で泣いていました。）

この繰り返しが、２０回ほど繰り返されたでしょうか。私はどうなるのかとドキドキしていました。お父さんが感情のままに娘を叩いたら、即止めに入らねば等と考えていました。

お父さんも涙を流し始め、声も切れ切れです。消え入るような声で

「○○…」と呼んだ時でした。

「は…い…」

私は感動して、よく２人の姿は見えませんでした。涙を拭った時にはお父さんはステージ上で娘を抱きしめていました。

その後卒業式まで、この子は声を発することはありませんでした。そして卒業式当日を迎えました。凛とした中にも、粛々と進んでいく卒業式。卒業証書の氏名点呼です。私は深呼吸をして彼女の名前を呼びました。ステージ上で校長先生に向かって、お父さんとの練習の通り、

「は…い…」

と返事をしました。この時は、校長先生も私も涙をこらえるので必死でした。次の児童の名前を呼ぶ前に、気持ちを平常に戻すのが大変でした。それ以降、卒業式は滞りなく進行し、感動的な卒業式となったことは言うまでもありません。この出来事から、私は幾つかのことを学びました。

その①「やはり親の無償の愛には太刀打ちできない。」

その②「教師として、この子の親だったらという視点を忘れない。」

その③「その子にとって本当に必要なことを見極める。」

以上の３点です。忘れがちなことであり、大切なことばかりです。私は常に振り返ることができるよう、子ども達と向き合う時に意識しています。

数年前、この子から封書が届きました。寿のシールが貼ってありました。結婚のお知らせと招待状でした。あの時、お父さんと一緒に行った荒療法が間違いなかったと改めて感じています。

さて、その年も年度末の異動の季節がやってきました。私は伊倉小学校３年目を終え、まだ異動の対象にはなっていませんでした。余裕余裕。いざ校長室へ!!

「澤田先生、退職願を書いてください。」

「何ですと～～～～?」（腰が抜けそうでした。）　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）